

平成18年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ダイズ害虫一般（カメムシ類、ハスモンヨトウ他）

平成18年8月16日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

8月10～14日に行った県内巡回調査の結果は表1、表3のとおりであった。
カメムシ類は、平年並の発生となっており、品質向上のため、適期防除を徹底する。
ハスモンヨトウは、平年より少ない発生となっているが、今後も幼虫による被害が増加するものと見込まれるので、ほ場の観察を十分に行い、早期発見、早期防除に努める。
その他、りん翅目害虫（ウワバ類）、フタスジヒメハムシの発生が多いほ場があるので注意する。
なお、気象予報によると向こう1か月の気温は平年並が高く、降水量は平年並と予想されており、ダイズ害虫の発生に好適と見込まれるので、今後の発生に注意する。

2 発生状況

【カメムシ類】

- (1) 8月14日現在、本県ではホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシの発生がみられ、県平均の発生ほ場率は50.0%（H12～17年平均：42.6%）、25株当たり平均成幼虫数は1.2頭（H12～17年平均：1.4頭）と平年並の発生となっている（表1、表3）。
- (2) 発生は県中西部でやや多く、東部でやや少ない。（表2）

【ハスモンヨトウ】

- (1) 8月14日現在、発生ほ場率は30.6%（H13～17年平均：48.5%）、1a当たりの平均白変か所数は0.1か所（H13～17年平均：0.5か所）と平年より少ない発生となっている（表1、表3）。
- (2) 現在、若齢～中齢幼虫が発生しており、幼虫の分散が始まっているほ場が多い。
- (3) フェロモントラップ調査における雄成虫の発生は、平年に比較して少ない。（表4）。

【その他】

- (1) りん翅目害虫（ヒメサヤムシガ類、ウコンノメイガ、ウワバ類等）による被害がハスモンヨトウの被害に混在して見られており、一部のほ場では、ウワバ類の食害が多い。
- (2) フタスジヒメハムシの発生は、平年よりやや多い。

表1 ダイズ害虫発生状況（平成18年8月中旬）（単位：頭、箇所）

市町村	地点	ほ場数	カメムシ類	ハスモン	フタスジ
			25株当虫数	1a当白変箇所数	25株当虫数
岩美町	大谷	3	0.7	0.00	8.3
鳥取市	上段	3	0.0	0.00	12.0
国府町	玉鉾	3	0.7	0.37	0.0
気高町	下坂本	3	0.7	0.20	8.7
河原町	佐貫	3	0.7	0.03	9.7
倉吉市	中江	3	1.0	0.07	9.3
湯梨浜町	長和田	3	0.3	0.17	2.7
大栄町	原	3	1.0	0.17	0.0
米子市	春日	3	2.0	0.03	13.3
南部町	福成	3	1.7	0.17	7.0
大山町	坊領	3	2.7	0.00	19.7
江府町	宮市	3	0.0	0.00	9.0
H18年平均			1.2	0.10	8.3

注) 数値は各地の平均値。

表中のハスモン、フタスジは、ハスモンヨトウ、フタスジヒメハムシを示す。

表2 カメムシ類の発生状況の平年比較（単位：頭）

年	調査地域		
	東部	中部	西部
H18	0.7	1.0	2.1
平年	1.4	0.6	1.6

注) 数字は、25株当たりの成幼虫数

表3 ダイズ害虫発生の年次推移（8月中旬） （単位：%、頭）

年	カメムシ類		ハスモンヨトウ		フタスジヒメハムシ	
	発生ほ場率	平均虫数	発生ほ場率	平均白変ヶ所数	発生ほ場率	平均虫数
H12	64.6%	3.5	-	-	-	-
H13	53.3%	1.9	30.3%	0.3	24.2%	4.1
H14	40.4%	1.2	54.2%	0.3	50.8%	2.8
H15	44.1%	0.7	11.8%	0.0	82.4%	8.2
H16	27.8%	0.8	69.4%	0.8	58.3%	3.0
H17	25.6%	0.7	76.7%	1.2	57.1%	8.7
平年	42.6%	1.4	48.5%	0.5	54.6%	5.4
H18	50.0%	1.2	30.6%	0.1	77.8%	8.3

注) カメムシ類の平年は、H12～H17の平均、ハスモンヨトウ、フタスジヒメハムシの平年は、H13～H17の平均

表4 ハスモンヨトウフェロモントラップによる成虫誘殺数の推移 （単位：頭）

月・半旬	鳥取市			湯梨浜町			鳥取市河原町		
	H18	平年	H17	H18	平年	H17	H18	平年	H17
7.1	5.8	27.0	10.0	0.0	129.9	398.0	9.4	34.3	87.0
7.2	14.2	33.6	14.0	47.9	85.7	189.0	24.8	36.0	22.0
7.3	21.4	31.5	35.0	45.1	68.8	213.0	31.4	43.0	33.0
7.4	27.6	25.1	0.0	64.9	99.6	278.0	24.4	38.7	53.0
7.5	11.5	25.2	11.0	97.1	134.6	292.0	5.8	27.0	67.0
7.6	3.7	31.3	6.0	6.0	222.0	597.0	9.4	31.7	43.0
7月計	84.2	173.7	76.0	261.0	740.6	1967.0	105.2	210.7	305.0
8.1	8.0	33.7	30.0	19.3	207.4	533.0	41.8	100.7	138.0

注) 鳥取市は乾式トラップ、他はファネルトラップ。

湯梨浜町の平年は、H10～H17の平均、河原町の平年はH15～H17の平均。

3 防除上注意すべき事項

【カメムシ類】

- (1) 防除は若莢期にあたる開花期の25～30日後と、その10日後の2回、防除指針等を参考に防除を行う。
- (2) カメムシと紫斑病の防除適期は重なるので下記の体系で同時防除を行う。
 - ア 粉剤を用いる場合
 - 1回目：開花期後25～30日後 マネージトレボン粉剤 DL 4kg/10a
 - 2回目：2回目防除の10日後 カメムシの防除薬剤（粉剤）
 - イ 液剤を用いる場合
 - 1回目：開花期後25～30日（全体の花が終わった時期）

紫斑病防除薬剤(アミスター20フロアブル 3,000倍)とカメムシ防除剤(エルサン乳剤、スミチオン乳剤、トレボン乳剤のいずれか1剤 1,000倍)の混用で薬量は150～300 μ g/10a

なお、展着剤を必ず加用する。
 - 2回目：1回目防除の10日後

カメムシ防除剤（乳剤あるいは粉剤）

【ハスモンヨトウ】

- (1) 若齢幼虫の加害によって発生する白変葉の早期発見に努め、発生初期の場合、葉の切除などの捕殺を行うか、防除指針等を参考に防除を行う。
- (2) 防除の目安は、1アール当たりの白変ヶ所数5ヶ所以上とする。なお、新葉の出葉により、白変葉が確認されにくいほ場が多いので、観察に当たっては、ほ場周辺からの観察のみならず、ほ場内での観察も行う。
要否を判断する。
- (3) 若齢幼虫に対する防除薬剤の効果は高いが、齢期が進むと防除効果が劣るため防除適期を失しないようにする。
なお、中～老齢幼虫が混在する場合は、ロムダン粉剤DL、ミミックジョーカー粉剤DL、マトリックジョーカー粉剤DL等を散布すると比較的效果が高い。

【その他】

- (1) フタスジヒメハムシの発生が多い場合はカルホス粉剤で防除を行う。
- (2) りん翅目害虫（ヒメサヤムシガ類、ウコンノメイガ、ウワバ類）の多いほ場では、農薬使用基準に従って防除を行う。